

## そだちのねっこ

～乳幼児期の遊びより～



「わたし、かわいいでしょ！」

～子どもの得意なことを遊びに取り入れるわけ～



教育センター所報  
7月号掲載

5月31日(金)、4歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。

保育室の一角で、黙々と遊ぶA児とB児がいました。A児は、小さな折り紙でハートを作っていました。折り方がとても丁寧でした。そして、できたハートを2個つなげて、自分の右そでに付けました。よく見ると、胸のところにもすでに色違いのハート折り紙が付いていました。それを見て、思わず「かわいいね!」「折り紙折るの、上手だね!」と声をかけました。すると、一瞬顔を上げ、「うん」とうなずき、また折り紙を折り続けていました。すると、横でブレスレットを作っていたB児が、「みてみて!」「これはどう?」と話しかけてきました。「いいね~」「どうやって作ったの?」と聞くと、「これを細長くして、ここにキラキラをつけて、腕に巻き付けるの」と嬉しそうに教えてくれました。さらに、「ここはね、作ったものを置いておく場所やねん。自分の顔があるところに置くねん」「これは、つめに付けれるねん。違うのに変えたりもできるねん」と遊び場所の解説をしてくれました。作ったら終わりではなく、遊びが続く工夫と、『もの』を大切にできる環境が整っていることに、保育者の思いを感じました。



そんなB児と私との会話を横で聞いていたA児が、左そでにハート折り紙を貼り付けて、「できた!」と私の方を見て伝えてきたので、「おお!ステキやね~。色も揃っていておしゃれやわ」と声をかけました。すると、B児が「Aちゃんは折り紙が得意やねん。だから、かわいいのん、たくさん作れるねん!」とA児のことを自分のことのように話してくれました。A児もにこっと笑いながら、次は何をつくらうかな?と考えている様子がありました。きっと、B児に認められ、A児の「もっとかわいくしよ!」という気持ちが、『できること(得意なこと)』から『イメージしたもの(新しいもの)をつくらう』とする遊びへの意欲につながったように思いました。

これまでの『メイクごっこ・つくって遊ぶ』遊びから、『アクセサリーやさん』や『おしゃれコーナー』など、名前を変えて遊びがどんどん発展していきそうにも思いました。

自分の『つくったもの』や『発案した遊び』が認められることは、自信になり、さらなる遊びの意欲や新たなものを見出そうとする思考力にもつながっていきます。

そして、「教えて!」「作ってほしい」などの友だちからのオーダーがきたら、A児はどうするだろうか?「〇〇つくりたいから、△△の材料ほしい」と自ら、先生に要求する姿も出てくるのだろうか?など、今後の遊びの展開も楽しみになりました。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】では、『健康な心と体』に大きくつながるエピソードでした。今後、この遊びが発展し、友だちとのかかわりも増えてくれば、『自立心』『協同性』『社会生活とのかかわり』『思考力の芽生え』『言葉による伝え合い』『豊かな感性と表現』の姿にも関連していきます。